



## 教育学部の現況

埼玉大学教育学部副学部長 有川 秀之

### はじめに

令和六年四月より副学部長を拝命し、二年目を迎えております。日頃より教友会の皆様には多くのご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。私は一九九一年に埼玉大学教養部に赴任いたしました。その後、大学設置基準の大綱化により、一九九五年教育学部へ配置換えとなり、保健体育・スポーツ（特に陸上競技・運動学）を専門として、将来教員となる学生に対して、豊かな心と健やかな身体を育むことができるよう、尽力してまいりました。

### 教育学部の現状と取り組み

教育学部は、令和八年度に新しい教育学部をスタートする準備が整いました。具体的には、学校教育教員養成課程（学校教育コース・教科教育コース）と養護教諭養成課程に組織再編し、「学校教育コース」では小学校免許状取得を必須とし、「教科教育コース」では小学校と中学校の両教員免許状の取得を必須としております。また、教科・専門分野を強化するとともに、

に、教員に求められる人間性と社会性を総合的に育てるカリキュラムとして、学部共通科目である「就職キャリア科目」などを中心に充実させます。さらに、講座横断的な教育体制として「現代的教育課題部門」「講座横断教員」の新設により、新たな時代の教育課題・教員養成に対応するようにいたします。

学生の受け入れについて、小学校コース前期日程の募集を「大きく入り入試」から「専修・分野別入試」に変更し、来年度ようやく卒業生を輩出できます。また、令和六年度入試より、一部の専修分野で後期日程を導入しております。

さらに、令和七年度入試から学校推薦型選抜に「地域枠」を導入しております（募集人員十六名に對し六十二名が応募）。埼玉県内の高等学校から、県内の小学校や特別支援学校への教職を強く希望する高校生を選抜して、大学四年間を通して地域の特色を踏まえた教育を進め、力量ある教員の輩出を図るものとして期待されております。

ます。

学部としての研究活動について、附属学校との連携により、「共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり」をテーマに先導的な教育モデルの開発を進め、毎年行う教育実践フォーラムで報告し、今年度は教育モデル・プログラムの中間まとめを行っております。

また、教員研修環境の充実に向けた研究成果の発信として、令和五年度から「埼玉大学教育学部が提供可能な教員研修一覧」を毎年集約し、県や市の教育委員会を通じて各学校が活用する形をとっており、令和七年度では百九十一タイトルに及びます。さらに教育学部ホームページに十五タイトルの教員研修動画を公開し、全国の教員研修に活用されております。

### 教職大学院の現状と取り組み

本学の教職大学院は、「総合教育高度化プログラム」と「教科教育高度化プログラム」の二つを開設計しています。幼児教育、特別支援教育を含めた学校教育を全面的

に支え牽引する高度な専門性を備えた人材を育成するために、豊かな教職経験を有する実務家教員を含む教育学部を担当するほぼすべての教員が教職大学院の指導を担当しております。入学者は、令和六年度五十一名、令和七年度五十五名となっており、概ね定員を充足しております。

また、令和七年度から、六年一貫教育の趣旨の下、大学院の一部の科目を院進学希望の学部生が受講し進学後に単位認定するプログラムを新規開設しました。このプログラムによって、教職大学院への学部生の進学希望者を増やすとともに、大学院水準の科目履修による資質・能力の高度化を可能とすることに加えて、大学院一年次のカリキュラムの過密さを軽減する効果が期待されます。令和七年度の募集に対して、十一名の学部四年生が、教職大学院の授業を受講しております。

### むすびに

埼玉大学は師範学校を基盤として受け継がれ、県内唯一の国立大学法人として、力量ある教員を養成することが期待されております。教育学部は、その使命を果たすよう取り組んでいく所存ですので、引き続きご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。